

大館市総合教育会議  
会 議 録

平成29年10月開催

## 平成29年度 第1回大館市総合教育会議 会議録

1 日 時 平成29年10月30日 月曜日  
開会 15時00分 閉会 16時00分

2 会 場 大館市役所 本庁 第1委員会室

3 出席者 大館市長 福原 淳嗣  
大館市教育委員会  
教 育 長 高橋 善之  
教 育 委 員 山田 和人  
教 育 委 員 清野 克子  
教 育 委 員 根田穂美子  
教 育 委 員 小笠原 正卓

### (事務局関係)

教育総務課長	加賀 安長
教育総務課長補佐	成田 浩司
教育総務課総務係長	関 智仁
学校教育課長	山本多鶴子
学校教育課長補佐	小松原功秀
教育研究所長	貝森 逸子
生涯学習課長	一関留美子
生涯学習課長補佐	小玉 均
中央公民館長	松田 新一
歴史文化課長	若宮 司
歴史文化課長補佐	大井 和博
スポーツ振興課長	菅原 悟
スポーツ振興課長補佐	佐藤 税

4 協議事項 (1) 次年度以降の重点的に講ずべき施策について

### 5 会議内容

#### ○佐々木教育次長

ただ今より、平成29年度第1回大館市総合教育会議を開会いたします。

本会議の構成員の皆さまの出席状況でございますが、本日は、全員出席でございます。

まず、会議の公開の取扱いについてお諮りいたします。

本日は、傍聴希望者はありませんが、報道関係者の取材希望が1社おられます。  
本日の会議につきましては、非公開とすべき事項はないものと考えられますので、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第6項により、本日の会議を公開とし、傍聴等を許可したいと思いますと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

「異議なし」

それでは、本日の会議は公開とさせていただきます。

はじめに、開会にあたりまして、当会議の招集者であります福原市長がごあいさつを申し上げます。

#### ○福原市長

改めまして、平成29年度第1回大館市総合教育会議を開催しましたところ、このように全員参加をいただきましたことに、心から深く感謝を申し上げます。

また、平素より大館市教育行政に対しまして、多大なるご理解とご尽力ご協力をいただいておりますことにも、重ねて感謝を申し上げます。

我が大館の政策は、政府の政策がそうであるように、住む人口は減っていくけれども、来る人口を増やしていこうとするものであります。

来る人口を増やしていくためには、2つの力が必要です。一つは『ものづくりの力』、もう一つは『ものがたりを作る力』。加えるならば『ものづくりの力とことづくりの力』です。

この力により、きちっと市民所得あるいは経済活性化をしたのち、これから大館を担うであろう子どもたちに、教育とスポーツの機会を提供するために投資をする。そして、今まで大館を支えてきてくれた世代に、安心と安全を届けるというのが、今の福原市政の大きな流れになっています。

高橋教育長と組んで2年半、高橋教育長を中心に「ふるさとキャリア教育」を実践させていただき、いよいよ7年目に入りますが、言うまでもなく国内外に高く評価をされるカリキュラムを、私たちは持ちつつあります。

ですが、これに胡坐をかいてはいけないと考えています。教育やスポーツに市民の皆さんが触れ合う『場』を、これから私たちがどうやって作っていくかが必要だと考えています。

この『場』というのは、「SPACE(スペース)=空間」を、思いの入った「PLACE(プレース)=場所」にするという意味であります。そうした意味におきまして、まさにこの教育行政においては、ソフトを実現するハードの議論がなければなりません。

スポーツや教育を通じて、『大館市民がつくる、大館市民が育つ、大館市も育つまちづくり』を掲げたのは、まさにここが欠けてはいけないということでもあります。

今回は、各課から次年度以降の重点的施策に関して説明をします。そして、私が

何よりも楽しみにしているのは、高橋教育長から新たな構想案が示されるということでもあります。

私たちは、この『場』をつくるために何を成していかなければならないかという話を、今からしていかなければならないと考えています。

今日は、限られた時間ではありますが、教育委員の皆様方からの忌憚のない貴重なご意見を、平成30年度以降の施策に反映させるような良き機会にしたいと考えておりますので、改めまして本総合教育会議へのご協力をお願い申し上げ、冒頭に当たっての私の言葉とさせていただきます。今日はよろしくお願いを申し上げます。

○佐々木教育次長

ありがとうございました。これより、本会議の進行は、大館市総合教育会議運営要綱第3条の規定によりまして、市長が議長と定められていることから、福原市長をお願いいたします。

市長、よろしくお願いをいたします。

○福原市長

それでは、規約に基づきまして議長を務めさせていただきます。円滑なご審議にご協力を賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

それでは、教育委員の皆様方に配布しております次第に従いまして、順次、進めさせていただきます。

次第の3番に移ります。高橋教育長よりごあいさつをお願いいたします。

○高橋教育長

市長には、日頃より大館の教育に対する深いご理解とご支援を賜りまして、この場を借りて感謝を申し上げます。

国が教育委員会改革を掲げて、新教育委員会制度を発足させて3年になります。首長と教育長が一体となって教育行政を推進していくという仕組みが出来たわけですが、全国的に見てもそれが十分に機能している自治体というのは、まだほとんどないというのが実情であります。

その中で、大館はこの2年間で次のことが進化しました。一つは、市長の未来戦略であります「新総合教育計画」の中に、しっかりと「ふるさとキャリア教育＝ひとづくり」を組み込んでいただいたこと。それがベースとなって未来戦略が展開していくという構想を作っていただきました。

二つ目としては、予算面におきましても「ふるさとキャリア夢事業」とか、いろんなところで未来投資としての予算をつけていただいているということ、これは他の市でも例がないことでもあります。

三点目としては、目立たないことですが、教育行政の強化に資する人財を市長部局から派遣していただいている、まさに教育の改革期において行動力の持った職員

を派遣していただいていることも、非常に大きなことだと受け止めております。

おそらく全国一、市長部局と教育委員会の組織が協働、連帯して進んでいると自負しておりますし、そのこと自体、私は誇りに思っております。

以上のような望ましい状況ですので、ふるさとキャリア教育による『未来大館市民』の人財育成をこれからも進化させていくとともに、教育・文化・スポーツを通じて、市長の未来戦略・交流人口の増加等に寄与してまいりたい所存でございます。

総合教育会議は、まさに大館の未来戦略会議でございます。この会を通じて、ゆるぎない教育に対する大館市の意思形成がなされて、未来大館の基盤が作られていくことを確信しております。どうかよろしく願いいたします。

○福原市長

ありがとうございました。

それでは、次第4の協議事項に入ります。協議に入る前に、事務局から発言を求められていますので、佐々木教育次長どうぞ。

○佐々木教育次長

議事進行は、議長である市長が行うべきところでございますが、市長、教育長、教育委員の皆様が一堂に会する貴重な時間はなかなかありませんので、協議事項の進行は事務局が行い、市長には教育長、教育委員の皆様と十分議論を尽くしていただきたいと考えておりますがいかがでしょうか。

「異議なし」

○福原市長

異議なしとのことでございましたので、議長を交代いたします。これより進行は事務局をお願いいたします。説明の順番等に関しましては、事務局に一任します。

○佐々木教育次長

それでは、「次年度以降の重点的に講ずべき施策について」、順次事務局からご説明申し上げます。なお、施策テーマ1件ごとに協議をしながら進めていきたいと思っておりますので、自由な意見交換をお願いいたします。

はじめに、高橋教育長から「大館教育の産業化構想（案）」について、説明をお願いいたします。

（「大館教育の産業化構想（案）」について、高橋教育長が説明）

○佐々木教育次長

ただ今のテーマにつきまして、協議したいと思っております。ご意見等あるかたは、挙

手をお願いします。

#### ○山田教育委員

本当にありがたい構想だと思います。もちろん、目標・目的は教育の充実であります、それをさらに進化させるためには、こういう方法があるのだと。これは手段だと私は理解しております。

あくまでも行く先は子どもたちの豊かな未来であって、大館の豊かな未来であるはずで。教育を切り口にしてこんな方法もあるのだという、刺激に満ちた提案だと私は理解しますので、これをいい形にしていけば私たち大人が一番刺激を受けるのではないかという気がしています。

教育を通して、生涯学習を通じて大人が刺激を受けるためにも、このような起爆剤があって初めて自信と誇りを持てる、そのための施策だと理解しました。

#### ○清野教育委員

「ふるさとキャリア教育」が7年目を迎え、これまでの実践の成果を整理・集約して次のステップを考えたときに、人財育成のために子どもたちを育てたい方向がこのようになるのだと示していただいていると思いました。

全国から来てくださったかたに子どもたちが触発されることもあると思います。一方向ではなくて双方向のいい連鎖が生まれるのではないかと私は思いました。

そういう意味で、一步一步実現する方向に出来るところから向かい、子どもたちの生き生きとした姿を見せていただくことができらうれしいです。

このたび、小学校の学習発表会、中学校の学校祭を、何校か拝見しました。それぞれの地域で、学校が保護者のかたや地域のかたに元気をあげていました。そこで皆さんが喜んでくれるのを見て、子どもたちは精一杯さらに頑張っていました。

大人と子どもが双方向で意識を高め合う、それが大館市だと切にそのような思いを実感したところです。

#### ○根田教育委員

高橋教育長の構想を聞きまして、子どもだけでなく私たち大人自身にも、市民の活性化にもつながるということを非常に強く感じました。

私も清野教育委員が話されたように、先月、コミュニティスクールになっている城西小学校の学校祭に参加させていただきました。そこで地域の皆さんが一体となって子どもを守っている、そして、子どもたちから元気をもらっているということを実感してまいりました。

みんなで子どもたちを育み、地域全体で子どもたちを育てていく、それがこの構想の中に非常に強く感じる事が出来ましたので、来年度に向けてさらに強固なものにしていただきたいと思います。

秋田県学力向上フォーラム in 大館が来年開催されますが、県内いろいろな所で話

を聞くと、大館市が県内では最先端と言われます。つまりは、全国的にも最先端を行っているとは私は自負しておりますし、県外の方々から、大館の教育を褒められることも度々あります。博報賞を3回も受賞して、それがいい形で全国へのPRにもなっています。一生懸命に子どもたちを良い方向に導いてくださっている先生方の力に対して、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

#### ○小笠原教育委員

私も保護者として親の視点から議論したいと思いますが、子どもたちは既にこの産業化構想の一部が出来ていると思います。その上で、今度は親たちが自分たちの子どもが受けている教育を評価する時代が来たのではないかと考えています。

自分の子どもの教育に夢中になっていて、今の教育が本当に素晴らしいものだというのを、私も含めて、まだまだ大館市民は理解できていないのではないかと。この産業化構想によって、改めて大館のすばらしさを再認識できることになると思います。

他の地域でもう追い付けない「大館」がトップを走っているもののひとつが教育です。それを具現化してアピールできるととても良い構想ですので、胡坐をかくことなく、さらにブラッシュアップしながら進めていただきたいと思います。

#### ○福原市長

波及効果に関して、先ほどの高橋教育長の説明に4番目のサマースクールの補足をさせていただきます。

教育委員の皆様ご存知のとおり、欧米は6、7、8月の夏休みはほとんど自宅に帰して勉強させます。そこから、それぞれの文化に対する理解を深めて、アメリカだったらアメリカ人としての誇り、まちの誇りを育むという教育が生まれます。

今、国はCCRCや生涯活躍のまちという、引退した人、引退が近い人を都会から地方に移住させるという政策を掲げていますが、それに併せて、東京オリンピック開催に関連させたサマースクールで、都市と農山村の若い世代の交流、という政策を打ってきます。

その議論の第一弾がキッズウィーク制度で、連休や夏休みをずらしたサマースクールなどです。期間は、何も3か月ではなくて3日でもいいのです。

渋谷の子たちが3日間サマースクールをするのであれば、大館を選びます。それだけ「ふるさとキャリア教育」のブランド化はすごいのです。サマースクールによって渋谷と関わることは、ものすごく子どもたちにとってメリットが大きいですし、そこをきちんと教育委員会として考えてくれているというのはうれしいことです。

グローバルな世の中になると多様な価値観が混在し、知識量よりも思考力を即戦力で高めていこうというのがはるかに重要になってきます。そのカリキュラムを実は大館ではすでに「ふるさとキャリア教育」として実践しています。それは高橋教育長の言う『アクティブラーニング』そのものであるとすれば、さらに特化させる

ことで、教育の面からも関係性人口を増やして交流人口を増やしていくというのが、高橋ビジョンだと思っています。

○山田教育委員

大館の子どもたちは、思考力、郷土思考力が高まっています。研修会で授業を見たとき、みんなで一緒に考え合い高め合える、そういう環境が大館にあることを実感しました。

○高橋教育長

少数精鋭がうたい文句だけではなくて、自然減の環境で人口が減っても、一人ひとりが自らを高め、少ないながらも一人ひとりが郷土愛を持っていればその力が何倍にもなっていく、これが大館の強みだと思います。

○佐々木教育次長

次に進みます。あと4つほどありますが、時間も限られていますので、まとめて進めさせていただきます。

(「信頼と安全を築く教育環境の整備充実」について、佐々木教育次長が説明)

(「ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の展開」について、佐々木教育次長が説明)

(「ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援」について、佐々木教育次長が説明)

(「市民スポーツの振興とスポーツ交流の拡充」について、佐々木教育次長が説明)

○佐々木教育次長

ただいまの説明に関して、どの項目でも結構ですので忌憚のないご意見をお願いいたします。

○山田教育委員

協議事項の学校改修工事等による教育環境整備の推進の中で、P T Aからの要望事項がありましたが、耐震工事が終わり、やっとP T Aの方々の要望に目を向けてくださったということで喜びを感じております。

○小笠原教育委員

先ほど福原市長から、より海外に目を向けるとの話をいただきました。そこで必



要なの、我々の子どもに対する英語教育だと思います。そこで、4番の「小学校英語教育の指導体制と職員研修、外国語活動支援員の確保」、これにも力を入れてお願いしたいと思います。

先週、ある研究会に出席させていただいて、中学校のALTの方々といろいろお話をする機会をいただきました。バックグラウンドが全然違いますが、大館に来てまだ間もない彼らが、子どもたちの教育に関して非常に真剣にディスカッションしてくださっています。彼らのような方々をしっかりとサポートできる体制、人数の確保など、小学校に向けて支援をしてくださるようお願いいたします。

#### ○福原市長

英語教育は、それを導入することで自分たちの地元にある良さに気付くし、コミュニケーションすることの大切さを、もっと落ち着いて見るようになってきます。

ベラベラと英語を話せるよりも、日本語としてきちんとした内容を話す哲学を持っているか持っていないかが外交の舞台では問われますので、その感覚を身に付ける上でも、早い段階で「外国語ってこういうものなんだ」と感じる事が大切だと思います。

#### ○根田教育委員

郷土博物館に関連した整備のことですが、耐震工事により長寿命化を図ること、貴重な文化財・美術品を受け入れられる施設の整備を進めるということは、以前から望まれていることなので、ぜひ力を入れて欲しいと思っています。

市内には、たくさん重要な文化財を持っている方がいると思います。それをどこに持ち込めばいいのか、どこに保管してもらえるのか、よく話を聞くことがあります。そのためにも受け入れ体制を進めていただき、少しでもたくさんの方のニーズに応えるようにしていただければありがたいです。

また、学校教育環境適正化の推進ですが、地元の方々と密接な話し合いを基に進められると思いますが、地元の方々の気持ちに配慮して、時間をかけて進めていただきたいと、切に願います。

#### ○福原市長

学校教育環境適正化に関しては、高橋教育長とも話していますが、ただ単に生徒が少ないから廃校とか、統廃合という議論は絶対にしないということは共有しております。郷土博物館のことは若宮歴史文化課長からお願いします。

#### ○若宮歴史文化課長

こちらの構想では、エレベータの設置や上階に大きい施設を造りたいと考えていますが、エレベータが予算的にダメであれば次に大事なのが収蔵庫だと考えています。少なくとも特別展示室並みの大きさの場所は確保したいと思っています。

○高橋教育長

郷土博物館は今お話ししたとおりですが、新庁舎建設時には、市民ホールに大館の文化財や芸術品を期間限定でも展示して、市民の方々に触れていただいて「大館市にもいいものがあるな。じゃあ今度、博物館に行ってみるか」というような仕組みが作れないかと思っています。

○清野教育委員

それは切にお願いします。交通の利便性がやはりネックになっているような気がしますので、作品が新庁舎に展示されるのであれば、皆さんに広く見ていただきたいと思います。

○根田教育委員

先日、秋田市に行ったときに、皆さんから言われました。「今大館市ではこういうのをやっているんだよ」と。私たち市民が気付いてないことを、市外の方々が関心を持ってくださっています。市外の方々がそのぐらい大館市の事を知っていることに対して大変うれしく思います。

○清野教育委員

公民館というのは、生涯学習にとって地域の拠点の場所となっています。そこを活性化・充実させるためには、ぜひ公民館職員のかたに社会教育主事の資格を取っていただくよう、積極的な助言をお願いしたいと思います。

小中学校では、ふるさとキャリア教育が進められ、高校生のHACHIも少しずつ育ってきています。大人もうまくつながるという意味を含めて、どの公民館にもその地域性を生かしたものをやれるようなアドバイザーや、企画する人がいれば、高齢者も生きがいを感じながら生活できるのではないのでしょうか。

図書館も司書の資格持ったかたを増やしていただきたいと思います。大館市の図書館は大変良く頑張っていると思いますので、そういう勉強をなさったかたがリードしていただければ、さらに高まっていくと思います。

○福原市長

今までとは違う切り口で、大館が持っている観光の資源、文化の資源、スポーツの強み、それをして新しいエデュケーションのフィールドを作っていくというのがこれからの大館市の教育のあり方だと思いますので、今後ともよろしく賜りますようお願い申し上げます。

○佐々木教育次長

以上を持ちまして、平成29年度第1回総合教育会議を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。